

保護司だより

春日部地区保護司会(春日部市・杉戸町・宮代町)

第6号

平成29年
2月発行

親しみとふれあいを目指して…



立ち直りを支える地域のチカラ

犯罪や非行をした人が地域社会の一員として円滑な社会生活を送るためには、本人の強い更生意欲と併せて、家族はもとより、職場、地域社会の理解と協力が必要です。

犯してしまった罪を償い、刑を終えて出所した人たちやその家族に対する偏見や差別は根強く、就職に際しての差別や住居の確保の困難等、社会復帰を目指す人たちにとって、現実には極めて厳しい状況にあります。生活を軌道に乗せられず、結局、再び罪を犯してしまふ例が後を絶ちません。実際、多くの犯罪が再犯によるものであり、一度罪を犯した人の支援をしっかりとしなければ、安心・安全な地域社会を

実現することはできません。

立ち直りを決意した人を決してあやまちに戻さない、私たちの「おかえりのチカラ」で支えあう社会が必要です。健全な社会人として立ち直るよう援助することにより、犯罪の危険から保護するとともに偏見や差別をなくすことが大切です。



すべての国民が、犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。この運動は昭和26年に始まり66回(平成28年)を数え、国、都道府県、市区町村を単位として「実施委員会」が置かれ毎年、広報ポスター、広報ビデオ、チラシ配布、講演会、住民集会、作文コンテスト等を実施し7月を強調月間とし、啓発活動を集中的に行われています。

黄色い羽根の話



犯した罪を償い、立ち直ろうとする人たちがいます。幸福の黄色い羽根はその姿を「おかえり」と迎え入れ、見守り支える温かい心の印しです。

社会を明るくする運動実施状況

小中学生の作文コンテスト

日本BBS連盟会長賞

さいたま保護観察所長賞



春日部市立豊野小学校
六年 山崎 花凜さん

今回、このような賞を頂けてとても光栄です。これをきっかけに、更に誰もが活躍できる社会を目指していきたいです。そのためにも、私自身が周りの人を差別や偏見の目で見ないことから、一歩進んでいきたいと思えます。

埼玉県推進委員会委員長賞



春日部市立武里中学校
二年 青木 勝将さん

僕は、犯罪を犯してしまった人たちをどれだけ信じて生活していくかで、その人たちの心の負担を減らせるのではないかと思っています。誰に対しても「信じるココロ」は大切だと思います。

講演会

7月15日、関係団体参加のもと春日部市社会を明るくする運動推進委員会主催の講演会が春日部市民文化会館にて開催されました。犯罪や非行をした人たちの立ち直りを支える立場から、更生保護の重要性について地域社会に理解を得られるよう努めることを目的に毎年実施されております。今回のテーマは「薬物依存の現状」についての講演でした。



埼玉ダルク施設長辻本俊之氏による講演

街頭活動



春日部駅東口での街頭活動

毎年7月1日、街頭広報活動の一環として、私たち保護司は更生保護ボランティアの自覚を持って、駅前や街頭に出向き、市民の皆さんにパンフレットや関連した啓発グッズを直接手渡しするキャンペーン活動に参加しています。

対象者体験記

私が立ち直れた理由、それは周囲の人たちの温かい支援があったからです。家族、保護司、友人、様々な人たちのお蔭で私は今、犯罪に再び手を染めることなく生活しています。私が10代で犯罪に手を染めてしまった時、私は「自分の理解者などいない。共犯者のAだけが自分を理解してくれている」と考えていました。Aに嫌われたくない、Aのすることは正しいと思いつみ自分の倫理観を放棄し、自ら行った犯罪を正当化しました。しかし、逮捕され留置場で面会に来てくれた両親を見た時、私は安堵すると共に罪悪感でいっぱいになりました。どうしようもない自分を両親は心から心配してくれているのだと、その時初めて気が付きました。そして、その両親の姿を見て自分の罪と向き合い、償おうと決心しました。保護処分が決定した後、Bさんが私の担当保護司になりました。Bさんは私の話を親身に聞いて、共感してくれました。私

が身勝手な理由でBさんに反発した時にも優しく諭してくれました。そして、Bさんと話す中で自分のやりたいことが見つかり、大学へ行くことを決めました。私が罪と向き合い、新たな道を見つけられたのは周囲の人々の支援があったからです。私もいつか、自分が助けてもらったように、誰かの役に立ち、助けられる人間になりたいです。

(男性 19歳)



保護司体験記

昭和61年11月、若干30歳での委嘱でした。新任の研修を受け、幸か不幸か直ぐに主任官より電話を頂き、交通1号観察を担当することになりました。今でもそうですが、初回面接の時には心が落ち着かず胸がドキドキし、不安な気持ちで面接したもので

す。対象者の両親や本人も同じことだと思われれます。

ここでいくつかの経験を紹介します。初めて頂きます。未成年の女性を担当した時の出来事です。最初の何回かは来訪がありました。が、市内の少し遠方に引越してから、遠くなつたせいか連絡もなくなりました。それでも月に何十回も往訪し面接を続けました。その後数年経った頃、母親よりお陰様で成人し結婚しましたと感謝の手紙が送られてきました。

時には対象者の就職した会社の社長が、以前私が保護観察として担当した青年だったということもありました。社長は数年前に結婚し会社を設立していたようです。このような時は保護司としての喜びを感じます。

犯罪は多様性があり、交通事故犯をはじめ、窃盗、詐欺、薬物、暴行、傷害、殺人、強姦等信じられないことばかりですが、事件を起こした保護観察対象者に対し更生に導いて行くのが保護司としての使命であり役目であると思います。(M・U保護司)

保護司と住民のふれ合い

さいたま保護観察所

保護観察官 軽部尚子

「お子さんは中学生？」子育てをテーマにしたミニ集会終了後、保護司が参加者の女性に声をかけた。疲れた表情が気になる女性だった。「息子の反抗期がひどくて」と話し始めた女性に「うちもそうだったわよ。返事がなくとも挨拶は続けてみて。」女性は保護司のアドバイスに笑顔を見せ「頑張ってます。」と帰って行った。

内閣府の世論調査(平成26年)によると保護司という言葉聞いたことがある人は約8割に上る。しかし活動内容を知る人は6割に満たない。地域に根ざした活動で参加者の方と積極的にふれ合い、生の保護司を知ってもらうことは更生保護活動を地域の方に知ってもらう絶好の機会になる。生き生きと活動する保護司に触れた女性はきっと誰かに「保護司って知ってる？」と話しかけていることだろう。

ダルク講演会に参加して

ダルクは、シンナー、大麻、覚せい剤などの薬物依存に陥った人たちが集まり、プログラムに従って共通の問題を解決し、薬物に頼らない生き方を身に着けるための施設です。講師の埼玉ダルク施設長辻本俊之氏が実際に薬物依存に陥り、その後、社会復帰を目指したご自身の体験に基づいた内容で、たいへん説得力がありました。

若者が薬物を使用することに、深く考えることなく簡単に手を出してしまうこと、そして薬物は友人や身近なところから入手している例があることなど、改めて強い衝撃と恐怖を感じました。また、市販の薬などでも使い方次第で薬物になるということでした。

近年、薬物乱用者が増えると共に、薬物依存症が低年齢化し、家庭や社会に深刻な影響を与えています。今回の講演は、薬物乱用防止を改めて考える良い契機となりました。

※NPO法人埼玉ダルク
電話 048(8222)3460

保護司って何？

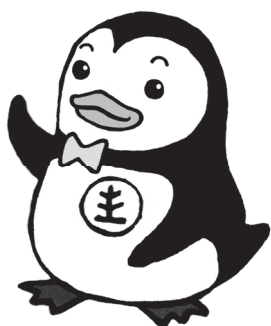
保護司は、犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える民間のボランティアで、法務大臣から委嘱された非常勤の国家公務員です。

保護観察官と協力しながら保護観察対象となった人と面接し、生活状況を見守ったり相談にのったりしています。

また、犯罪や非行をした人が刑務所や少年院から社会復帰をしたとき、スムーズに社会生活が営めるよう、住居や就業先などの調整や相談を行っています。

その他の活動として、犯罪や非行を生まない地域づくりのための啓発活動も行っています。

保護司は現在、全国で約4万8千人が活動しています。



更生保護のマスコットキャラクター
「更生ペンギンのホゴちゃん」

春日部地区保護司会名簿

(平成28年12月1日現在)

春日部支部								宮代支部	杉戸支部
粕壁地区	内牧地区	幸松地区	武里地区	武里団地地区	豊野地区	豊春地区	庄和地区		
石川ヒサ子	飯塚 悦子	尾花 冬樹	飯田 道代	中田 礼子	石塚 唯夫	新井 和正	中田 晃	伊草美枝子	大串 雅治
岡田 誠一	野村 三男	熊井 知仁	伊澤しづ枝	矢島 順子	浪打 彬	河井 崇文	中田 健治	折原 正司	川田 妙悦
梶川登代子	松本 博道	関根 政男	石川 豊		逸見 英男	清水けい子	野上 幸司	小林 次祥	菅野 泰孝
木村奈加子		高橋 薫	梅谷 正之		水口 賢一	竹田 正則	水野 洋	田島 正徳	坂巻 東洋
児島 信弘		菱沼 和保	金重 光江			當間 義廣	山内 融法	ケ谷千佳子	關口 邦子
小林 秀樹		平原まり子	小久保博史			平原 君子		手島 互	芹沢 久枝
中島 幸一			時田 温史			三浦 宏之		中村 恵子	高岡 邦人
中田 卯敦			三ノ輪健三			峯山 篤雄			武井 浩昌
永田 京子						山崎富美男			野口 道夫
吉村 貞子						渡邊 一民			馬島由美子

※50音順

編集後記

第6号のテーマは「親しみとふれあいを目指して」としました。誰と誰が親しみ、ふれあうのでしょうか。3面では更生して頑張っている人を紹介させて頂きました。立ち直ろうという人の気持ちや理解し住民の一人ひとりが「親しみとふれあい」を持って応援して頂ければ素晴らしいことだと思います。

(文責 菅野泰孝)

発行・編集

春日部地区保護司会

事務局

春日部市中央六丁目二番地
春日部市役所生活支援課内

更生保護シンボルマーク



人はみな、
生かされて
生きてゆく。
更生保護ネットワーク